

# 道德教育通信

【発行】

令和六年六月五日

## 会長挨拶

高遠北小学校 塚越智英



先生方、改めましてこんにちは。本年度、会長を務めさせていただくことになりました。高遠北小学校の塚越智英と申します。もとより大変力不足であり、先生方にご迷惑をおかけしてしまうこともあるかも知れません。ですが、道德という大切な学びにおいて、先生方とともに考え合っていけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。個人的なことですが、自分自身と道德との少し濃い関わりということで言えば、たまたま縁があって、初任校での教育課程の授業者から始まり、その後、行く先々で、形を変えながら、取り組む機会には恵まれてきた、ということなのです。

とは言っても、自分で授業をする場からは離れて時間が経ってしまいましたし、今現在の道德科の学びについて分かっているかと言えば、とてもそうだとは言えません。ただ、私自身が、この道德の学びに惹かれてしまうのは、それが常に自分自身に考える場を提供してくれるからです。

人が生きていく上で、その価値内容はどういうに大切になってくるのか、どんなことに価値を見出せば、自分自身がより真つ当に人生を歩んでいこうと思えるようになるのか、道德の授業は、そういったことで頭を悩ませる場面を与えてくれます。私のように弱さを抱えている人間にとってはそれは、道しるべの一つとなる大切な学びです。

そしてもう一つ、どのように生きていくかを考えるという点においては、児童生徒も教師も同じ土俵に立てる、自ずとそうなっていく、そう思っています。目の前にいる児童生徒とともに、何をどのように大切だととらえていくのかを考えていく。その時間だけでは結論が簡単に出ないときもあるかも知れないけれど、考えていく。そんな道德の学びについて、先生方と一緒に考え合っていければと思っています。どうぞよろしく願います。

上伊那道德教育研究会総会（令和六年五月十七日）  
講演会「誰だって自分で分かってゆく人生を歩みたい」

講師 中島一彦先生

立科町教育委員会指導主事及び長野県道德教育学会会長（令和六年度就任）でいらつしやる中島先生は、そのような肩書きを紹介されることを厭い、ひたすらに道德教育を愛し、推進する方です。今回の演題「誰だって自分で分かってゆく人生を歩みたい」は、中島先生のご経験を基にお話くださいました。

「非難していたものが実は自分の中であり、誇りとしていたものが実態のないものであるという経験をした子どもたち。命とは混沌としたものであり、混沌とした様相を心に刻み、自分自身で分かっていたいものではないでしょうか。」と中島先生はおっしゃいました。学校道德だけでなく、市民道德としての在り方を模索していきたいとおっしゃり、たくさんの方の問いを私たちにもくださいました。

講演後は、参加者でグループセッションを行い、学びを深めました。



今から六年前、道德教育推進委員をやらせていただき、中島先生と初めてお会いしてから、かなりの年月が経過したので、私のことなど、もうお忘れだろうと思いきや、「井上先生」と、声をかけていただき、大変感動しました。また、中島先生のご講演においては、人を惹きつける話し口調に、飽きることなく時間を過ごすことができました。学校におけるすべての活動に道德教育がちりばめられていることを学びました。教育が生徒と共に成長しようという心構えが大切だと実感しました。ありがとうございました。これからも度々お世話になります。よろしく願います。

伊那中学校 井上卓也

